

庁舎移転・学校プール廃止 ストップ! 一点共闘を強め、区政を前に進めます

**区民に明らかにしないまま
庁舎移転に突き進んでいいのか**

二月の区長・区議選はマスコミも庁舎問題が最大争点と報じましたが、青木区長は、選挙中も、今定例会所信表明でも庁舎問題について一言も語りませんでした。

それどころか自民、公明は「660億円の税金投入は間違った情報」との本会議質問を行い、区長も「誤った情報」と茶番劇を演じました。

下表の通り、総事業費の7割、約660億円は税金でまかなわれるものです。しかも保留床、修繕積立金はあ

くまでも現時点のものであり、今後の協議で変わります。

区は、今定例会で「総合庁舎整備と現庁舎・庁舎敷地の活用方針(案)」を報告し今後の指針としました。

しかし、9月に報告された「素案」と中身は変わらず、保留床等がいくらになるのか、庁舎のどの部署を駅前に移転するのかは明らか

かにしていません。

結局、再開発ビルの床だけは購入することを決めるものでしかなく、「区民サービスの向上」を口実にした再開発事業の救済と言わなければなりません。

区長選の度にわが党が支援する候補の得票増は、こうした区政のあり方に対する区民の怒りの現れです。引き続き、議会の内外で庁

舎移転の不当性を問い続けていかなければなりません。

立石駅北口地区再開発事業の総事業費と税金でまかなう費用(2020年9月時点)

①補助金	25,355
②公共施設管理者負担金	11,799
③緊急促進補助金	1,045
④保留床処分金	54,967
総事業費合計	93,166

(単位百万円)

税金でまかなう費用と移転費用

①～③までは税金	38,199
④の内、区が購入する分	26,600
備品購入費	460
運搬経費	60
維持管理費	370
修繕積立金	80
税金投入の合計	65,769

(単位百万円)

区民の声を聞かない区教委に「学校プール守れ」の3つの請願

今定例会では、学校プールをなくし、水泳指導を民間温水プール等を活用した。プールがある学校でも順次、学校外プールを活用するという考え方です。

学校プールは必要だという立場から、「教職員会」「水元小関係者の会」「水元温水プールの利用者サークル」の3団体から請願が提出されました。

12月8日の文教委員会では、各団体から、請願の趣旨説明を伺い審議が行われました。

無所属委員や共産党委員から「住民とのコミュニケーションがとれていないのは教育委員会の側に責任がある」「水元小のプール解体の時も、仮設校舎もこれから工事に取り掛かるのにも住民説明会を行わないことは認められない」など、住民

の声に耳を傾けようとしてない教育委員会の態度を批判し、請願の採択を迫りました。

自民、公明などは、移動時間の問題や民間プールの経営状態への不安などの質問をするものの結局は、温水プールで水泳指導をすることに期待する保護者がいるとプールをなくすことに同調し、2つの請願を否決しました。尚、「利用者サークル」の請願は、「継続」となりました。

願には、4名がわが党とともに採択を主張しました。

これまでの運動の成果であるとともに、今後の運動と論戦の広がりの可能性を示すものです。

12月16日本会議での各会派・無所属議員の賛否

番 号	件 名	付託委員会	審議結果											備 考			
			自 民	公 明	区 民	共 産	大 会	小 川	派 き よ う か	名 つ た	田 中	島 根	み ず ま		村 松		
9	3請願第10号 水元小学校の改築計画に関する請願	文教	×	×	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
10	3請願第9号 「今後の水泳指導の実施方法に関する方針」(2020年12月25日)に関する請願	文教	×	×	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×



発行 日本共産党
葛飾区議会議員団
03(5654)8520(直通)
責任者 中村しんご

日本共産党 葛飾区議団だより

日本共産党区議団のホームページをごらんください
<http://www.jcp-katsushika.jp/>



「100%再生エネ電力に切り替える」と答弁

今定例会では、人類が直面する緊急課題としての地球温暖化対策を取り上げました。

公共施設の電力は再生エネ100%の電力を使用すること求めたところ、区は、「公共施設における電力は再生可能エネルギー100%の電力に切り替える」との答弁を引き出しました。

区が掲げた2050年までのCO2排出ゼロを目指すには、省エネと同時に再生エネ利用を確実に進めていく必要があります。

環境基本計画素案では、公共施設の新築や改築の際には、設計段階で省エネ性能を明確化するとされていますが、区内の再開発エリアに高層ビルを建てるのもCO2排出量の問題があります。

樹木の管理やCO2吸収量の見える化

も提案しました。

区は「数値とともにわかりやすい事例も掲げていきたい」「樹木の本数の管理は難しいが、より多くの植栽ができるよう工夫する」と答弁しました。

樹木の保護、バス路線の拡充、ごみの減量など環境に配慮した取り組みは、区民がその効果を実感できてこそ価値を發揮します。

虐待から子どもを命を守るために児童相談所の役割はますます重要です。

児童相談所は公有地で整備を

区は、児童相談所の開設時期を2024年度と決め工事を急ごうとしています

が、一番肝心の職員研修計画が大幅に遅れています。

そのため、通報の第一報を民間委託で済ま

す。

区は、1月日まで『第3次葛飾区環境基本計画（素案）』『（仮称）葛飾区環境基本条例（素案）』『（仮称）葛飾区集合住宅の建築

及び管理に関する条例（素案）』の環境関連3つのパブリック・コメントを募集しています。

新型コロナ対策 16回目の緊急要望



12月9日、青木区長に要望書を渡す区議団。右から、片岡、木村、中村、三小田。

そうしていることは問題です。

また、整備予定の土地は、35年しか使えない定期借地契約になっているため、毎月、地代220万円を支払い、合計9億2400万円にもなります。施設整備費は26億円です。それでも35年経つと更地にして返さなければなりません。

また35年しか使えない設計と施工になっているため公共施設の長寿命化に反します。人員体制や税金の使い方の問題からも、公有地で整備できるように開設時期の延期を求めています。

土地の価格や定期借地契約等について裁判が行われています

1月26日(水)
11:10~
東京地裁522法廷

2022年も要求実現にがんばります

お困りごとは各議員の携帯電話にご連絡ください



建設環境委員会
区民サービス向上対策特別委員会

片岡ちとせ

【080-5197-7547 堀切6-27-11 第3金曜日】

初めての区議会に臨み、新人議員に区民の皆さんが期待しているのは、区政が新しくなっていくことがきちんと住民に見えることではないかと感じました。この重責をしっかりと心をこめて担っていきたくと思います。初質問でも取り上げたジェンダー平等や気候危機は社会の動きが速い分野です。敏感に繊細に取り組んでいきます。



保健福祉委員会
区民サービス向上対策特別委員会

木村ひでこ

【090-8640-5378 青戸5-27-5 第1水曜日】

地域の皆さんと金町駅にホームドア設置を求める署名運動をおこない、鉄道事業者や議会に要請をしてきました。それが実って、早ければ2022年度（令和4年度）には金町駅、亀有駅、新小岩駅で工事が始まる予定です。同時に区は、ホームドア設置の補助金を区内全駅に拡大することにしました。声を上げれば政治は動きます。



議会運営委員会、文教委員会
都市基盤整備対策特別委員会

中村しんご

【090-8686-2671 四つ木1-42-3 第3水曜日】

7期目の議員活動のスタート、区議会のなかでも、年齢でも私より年長の議員は6名、同級生が二人いるので残りの32名は若い議員で占められています。議会規則では、初めての委員会では、年長者が臨時委員長に指名されるのですが、文教委員会ではその臨時委員長に指名されてしまいました。区民に背中を押されて獲得した貴重な議席ですから、胸を張って頑張ります。



総務委員会
危機管理対策特別委員会

三小田准一

【090-8040-1181 高砂5-54-2 第2木曜日】

「所管が違う」。委員会で理事者がよく使います。たとえば総務委員会で児童相談所の工事契約の議案について質疑をしていると、「所管は保健福祉委員会なので所管が違います」と逃げてしまいます。「内容を深めるためにも中身に入らざるを得ない」と委員長に問うと、「質問してはいけないわけではない」と言わざるを得ませんでした。